

1 3 章 九州大学／ASEAN 教育交流プログラム

1. 概要

九州大学は「国際的に通用する人材育成」の理念と「アジア重視の国際戦略」を掲げている。ASEAN in Today's World (AsTW)は九州大学の国際戦略に沿った「アジア重視戦略」の一環としてのプログラムであり、ASEAN+3（日中韓）の国際的な枠組みの中で展開することにより教育の国際化を意図する他に例のない ASEAN 全体との教育交流である。ASEAN と日中韓の学生が ASEAN 域内都市に集結し学習の機会を共有して交流を深めることは、彼らのアジアと世界に関するビジョン形成に資するものであり、世界の枠組みの再編成が進行している時代において活躍が期待される人材の育成を企図する。

- ① ASEAN+3 の国際的な枠組みの中で展開することにより教育の国際化を推進する。
- ② 九州大学が主導する、アジアの発展のための人材育成と人脈形成を企図した、ASEAN 全体との教育プログラム。
- ③ 九州大学初のオフショア（海外で実施する）プログラム
- ④ 九州大学の国際化の促進を図る。
 - ・初級日本語とビジネス日本語を開講して日本語文化への関心を高め、また、九州大学教員による授業を提供することにより、九州大学への留学者数の増加につなげる。
 - ・九州大学教員に英語による授業実践の場を提供する。

2. 背景

九州大学では、2001 年より、アジアを中心として欧米を含む学生を対象とする、国際サマー・プログラム Asia in Today's World(ATW)を実施している。これまでの Asia in Today's World (ATW)の参加大学は以下のとおりである。

- 韓 国 : ソウル大学、延世大学、韓国科学技術院、梨花女子大学など
中 国 : 北京大学、清華大学、上海交通大学、復旦大学、香港大学など
台 湾 : 台湾大学、中山大学、国立清華大学
シンガポール : シンガポール大学、シンガポールマネージメント大学
マレーシア : マルティメディア大学
フィリピン : アテネオ・デ・マニラ大学

- アメリカ : プリンストン大学、コロンビア大学、
ミシガン大学、ライス大学など
- カナダ : キーンズ大学、トロント大学
- イギリス : ロンドン大学、オックスフォード大学
- ベルギー : レウベン・カトリック大学

3. 経緯とプログラム内容について

ASEAN 事務総長のスリン先生が契機となり始まった。2007 年 9 月に、事務総長に就任する前に九州大学に訪問する機会があり、そのとき既に九州大学で実施している外国人向け短期コースについて説明をした。九州大学は 2001 年から、大学内で 6 週間のアジア地域のサマーコース (ATW) をやっていて、それを ASEAN に限定して、かつ ASEAN のどこかの地域で ASEAN の学生のためにやるようなものを開発してくれないかという希望が出された。当時の国際交流関係の副学長が、ぜひ事務総長の希望に沿うようにと、九州大学としてもアジア指向を国際戦略に掲げているため、そこをマッチするためぜひ開発したいということで動き出した。

ASEAN 内の大学の協力が要ることになり、かつてよりいろいろと協力関係が強固であったマヒドン大学に協力を持ちかけ、今回一緒にやることになった。学生募集、宣伝をすることに苦勞した。郵送、電話、メールなどで参加者を募集した。日本の大学は、九州県内の国立大学と、九州大学と連携している福岡県内の大学である西南学院大学や福岡女子大学などには募集の依頼を出した。関西・関東では、大阪大学と、早稲田大学が包括連携協定校ということで募集をした。アジア経済の影響もあり、参加者はアジア地域のみであった。参加者は、インドネシア、ブルネイ、ラオス、ミャンマー、フィリピン、ベトナム、タイ、日本の 8 か国 39 人の学生である。書類選考で参加者を決定した。マヒドン大学からは、施設を提供してもらっているが、とりわけ、奨学金を提供していることが支援として大きい。14~15 人が奨学金を受けることになった。ASEAN の学生については、授業料全額、交通費、航空券がカバーされる。日本人学生は授業料の半額が免除される。日本人学生は 1 年生、2 年生を中心に 7 人が参加している。九州大学の学生は全学教育科目として履修が可能である。大学院の博士課程の学生も参加しているが、単位は取らない。

カリキュラムは留学生センターと国際交流推進室の教職員で話し合っ て決めた。授業を担当する教員は九州大学農学部、農学研究院、法学研究院、アジア総合政策センターから

お願いした。教員の国籍は日本、マレーシア、アメリカなどで構成される。国籍の多様性はマヒドン大学のインターナショナルカレッジの教員にお願いしていることが理由として挙げられる。ASEAN 研究科目 4 科目で、それぞれ教員が 2 人ずつおり、他に語学教員がいる。

〈カリキュラム〉

ASEAN 学コース

九州大学、マヒドン大学、および ASEAN 地域の大学の講師が英語で行う講義である。以下の 4 科目から 2 科目を選択する。

1. アセアン－東アジア事情
2. 社会開発と公衆衛生
3. 日本現代文化
4. 環境と危機管理・食料供給と危機管理・自然災害と危機管理

アジア文化入門コース

マヒドン大学の講師による、初級レベルの言語コースである。以下の 3 科目から 1 科目を選択する。外国籍の参加者は、下記以外に「日本文化入門」または「ビジネス日本語」の選択も可能である。

1. タイ文化入門
2. インドネシア文化入門
3. ベトナム文化入門

プログラム修了には、ASEAN 学コース 2 科目＋アジア文化入門コース 1 科目の計 3 科目の履修が必要である。これらの科目は九州大学全学教育科目（各 2 単位）として開講されるので、九州大学の学部生は 6 単位を取得できる。

4. 外部機関の支援

ASEAN 事務局が積極的に関与することを表明しており、ASEAN 事務局推奨プログラムとして広報することに同意している。ASEAN 事務総長には開講式に出席いただく予定である。ASEAN 大学ネットワーク（AUN、事務局はチュラロンコーン大学（タイ）に設置）からは、ネットワークを通じた学生募集と講師派遣に関する協力がある。

5. 教育理念と目標の関連性

九州大学は平成12年度に制定した教育憲章において、人間性、社会性、国際性及び専門性の原則を掲げ、様々な分野において指導的役割を果たしアジアをはじめ広く全世界で活躍する人材を輩出することにより、日本、アジア及び世界の発展に貢献することを目的としている。更に、この目的を達成するため、秀でた国際性を有する人材を育成し、アジアと世界の人々の文化的、社会的、経済的発展に寄与することを志向する。この理念の下、九州大学はアジアに所在する大学として、また欧米の二極に拮抗するアジアのプレゼンスを確立する戦略を有する大学として、地域共同意識を育む国際共同教育プログラムとしてこの事業を実施する。ASEANにフォーカスしたプログラムにより、宗教・言語・文化等の多様性に富むASEAN諸国と東アジアの価値観を相互認識することで、学生の国際性涵養を図る環境を創設し、秀でた国際性を有する人材育成の目的を果たす。

6. 大学教育の国際化への効果

ASEAN域内の一箇所に多様なバックグラウンドを持つ学生たちが集結し、ASEANと東アジアを学び、意見交換の機会を共有するプログラムはASEAN諸国と東アジアの宗教・言語・文化の多様性を理解し、価値観の異なる同朋と共生して行くことのできる国際性を身につけた、将来の国際社会で活躍し得る人材の育成を可能にする。このことは、プログラムの教育効果が日本に留まらず、全世界の波及することを意味している。また、九州大学教員とASEAN地域の大学教員が共同して授業を行うことにより、教員側からの教育の国際化が期待される。プログラムの開発によってグループとしてのASEAN有力大学との連携を図る体制を整備し、将来的に中国、韓国の教員による授業も想定しており、これにより高等教育の国際化をASEAN+3とで共同展開する計画である。

7. 実施体制・構成員の役割

管理運営は国際交流推進室と国際交流部留学生課を中心として実施し、九州大学が国際事務局となりASEAN側大学の実施窓口であるマヒドン大学との協力体制を取っている。

〈プログラム実施体制〉

- ◇ プログラム実施責任者：九州大学理事・副学長（国際交流・留学生担当）
- ◇ プログラム実施担当部署：国際交流推進室、国際交流部留学生課
- ◇ プログラム共同実施大学・ASEAN側大学事務局：マヒドン大学（タイ）

- ◇ プログラムコーディネーター：九州大学とマヒドン大学の専任教員各 1 名を選任
〈マヒドン大学との協力体制〉
- ◇ 九州大学は国際事務局としてプログラム管理運営を統括し、ASEAN 事務局及び ASEAN に所在する日本商工会議所との連絡調整を行う。また、ASEAN 地域外の教員確保と学生募集などを行う。
- ◇ マヒドン大学は共同実施大学及び ASEAN 側大学の事務局として、教員確保と学生募集を行う。また、大学内施設を提供する。

8. 評価体制等

実施体制は九州大学の国際交流の基本方針を審議する全学委員会である国際交流専門委員会を審議委員会とし、実施の細部などについては留学生センター委員会が担当する。また、支援組織は国際交流推進室及び国際交流部留学生課を中心に組織する。プログラム評価のために、新たに国際交流専門委員会の下にプログラムの評価・検討部会を設置し効果などの検証を行う。同部会の構成員は九州大学理事・副学長（国際交流・留学生担当）を含む学内委員と、駐日 ASEAN 各国教育担当領事若干名、及び駐 ASEAN 日本商工会議所会員若干名などの外部委員を予定している。この評価を受けて、国際交流専門委員会及び留学生センター委員会はプログラムに係る教育活動の質の向上及び改善などを図る。

【参考資料】

九州大学・ASEAN 教育交流プログラム

<http://www.kyushu-u.ac.jp/pressrelease/2008/2008-06-17-05.pdf>

九州大学国際交流推進室 准助

教 高原芳枝氏、九州大学 准教授 郭俊海氏へのインタビュー記録（2009 年 2 月 13 日）による。